

本編上映後 原義和監督・吉田明彦氏・平良愛香氏による トークセッションビデオを上映します。

隔離の闇を照らす

歌の記憶

歌が伝えるのは

あなたが生きた証

夜明け前のうた

消された沖縄の障害者



監督・撮影・編集：原義和 制作：高橋年男 山田圭吾 糸洲のふ子 ナレーション：宮城さつき 音楽：白川ミナ 創作舞踊：Danzatakara.
製作協力：沖縄県精神保健福祉社会連合会 沖縄YWCA 製作：障害者映像文化研究所 イメージ・サテライト プロデューサー：中橋真紀人 配給：新日本映画社 2020年日本・DUP カラー 5.1ch / 97分 / ©2020 原義和
UDC 認定 本件はUDCast®(パリアフリー字幕・音声ガイド)に対応しています。 文化庁文化芸術振興費補助金(障害者芸術活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

1960年代の沖縄 障害者が隔離された現場の写真
入手したジャーナリストが明らかにする日本国家の罪

2022年10月15日(土) 14:00～ (13:30開場) 16:30終演

神戸市立東灘区文化センター
(うはらホール) 大ホール

神戸市東灘区住吉東町5丁目1-16
JR・六甲ライナー：住吉駅 下車 南側へ徒歩約3分

事前予約制/前売り1000円

*東灘区文化センターの駐車場はございません。
最寄りの駐車場は裏面記載のウェブサイトをご参照ください。

*定員に余裕があれば、当日参加も可能です。

犠牲の歴史と向き合うこと
孤独と絶望に思いをめぐらせること
傷つけられた尊厳の回復を祈ること
死者の歌に耳を傾けること
消された名前を刻むこと



知られざる沖縄の犠牲

『一部の犠牲はやむを得ない』…これは日本国家の根幹にあり続けている考え方です。戦後、サンフランシスコ条約によって沖縄を日本から切り離したことは、その象徴と言えるかもしれません。その後の米軍基地の沖縄への集中も同じです。その考えは、地域社会においても、日本の隅々まで貫かれてきました。

私宅監置…1900年制定の法律に基づき、精神障害者を小屋などに隔離した、かつての制度です。精神障害者を犠牲にし、地域社会の安寧を保とうとしてきたのが、日本です。1950年に日本本土では禁止になったこの制度は、沖縄ではその後も残りました。やむを得ない犠牲として沖縄を見限った、日本国家の考えそのものと言えます。隔離の犠牲者は人生を奪われ、尊厳を深く傷つけられましたが、公的な調査や検証は行われていません。「家族の恥」「地域の恥」、ひいては「日本の恥」として闇に葬られてきた歴史です。本当に恥ずべきは、隠し続けることではないでしょうか。

この映画は、小さくされ、犠牲を強いられたいごく一部の人のびとを、あえて見つめる映画です。闇の歴史と向き合うことで、初めて開くことのできる光の地平があると信じるからです。



なぜ、歌っていたのか

10数年にわたって私宅監置されていたある女性は、よく歌っていたと言います。監置小屋の中で、歌を通して、彼女に一筋の救いの光が訪れていたことを願わずにはいられません。

今なお、居場所がなく孤立している精神障害者は大勢いますが、それは私宅監置の過去と地続きです。形を変えた私宅監置は、現在も至る所にあります。過去の過ちを検証し、犠牲者に謝罪し、償う。そこから出発しない限り、日本は永久に確かな未来を開くことはできない…。耳を澄ますと、犠牲者の歌が聞こえてきます。



夜明け前のうた ~消された沖縄の障害者

監督・撮影・編集:原 義和

制作:高橋年男 山田圭吾 糸洲のぶ子 ナレーション:宮城さつき

音楽:白川ミナ 創作舞踊:Danzatakara.

製作協力:沖縄県精神保健福祉会連合会 沖縄YWCA 製作:障害者映像文化研究所 イメージ・サテライト
プロデューサー:中橋真紀人 配給:新日本映画社 [2020/日本/DCP/カラー/5.1ch/97分] ©2020 原義和

yoake-uta.com

ご予約・詳細: <http://www.higashikobech.org/?p=3879>

お問合せ: higashikobe.church@gmail.com

主催 『夜明け前のうた』神戸上映会実行委員会

日本基督教団東神戸教会

後援 兵庫県精神医療人権センター
精神医療サバイバーズフロント関西
恣意的拘禁を考える会
リメンバー 7.26 神戸アクション

お申し込みはこちら



監督:原 義和 (フリーTVディレクター) Profile

1969年愛知県名古屋市生まれ。2005年より沖縄を生活拠点にドキュメンタリー番組の企画制作を行う。東日本大震災の後は福島にも通って取材し、Eテレ「福島をずっと見ているTV」などにディレクターとして参加。

主な制作番組は「戦場のうた～元“慰安婦”の胸痛む現実と歴史」(2013年琉球放送/2014年日本民間放送連盟賞テレビ報道番組最優秀賞)、「インドネシアの戦時性暴力」(2015年7月TBS報道特集・第53回ギャラクシー賞奨励賞)、「Born Again～画家 正子・R・サマーズの人生」(2016年琉球放送/第54回ギャラクシー賞優秀賞)、「消された精神障害者」(2018年Eテレ ハートネットTV/貧困ジャーナリズム賞2018)など。著書に「消された精神障害者」(高文研)、編書に「画家 正子・R・サマーズの生涯」(高文研)。

本編上映後、原義和監督・吉田明彦氏(精神医療サバイバーズフロント関西 主宰)・平良愛香氏(牧師、ウチナンチュ)による、トークセッションビデオを上映いたします。ウチナンチュ・精神障害者など「自己決定権を奪われた人たち」の歴史を振り返ると共に、今も続く人権と差別の問題についてお話しいただきます。